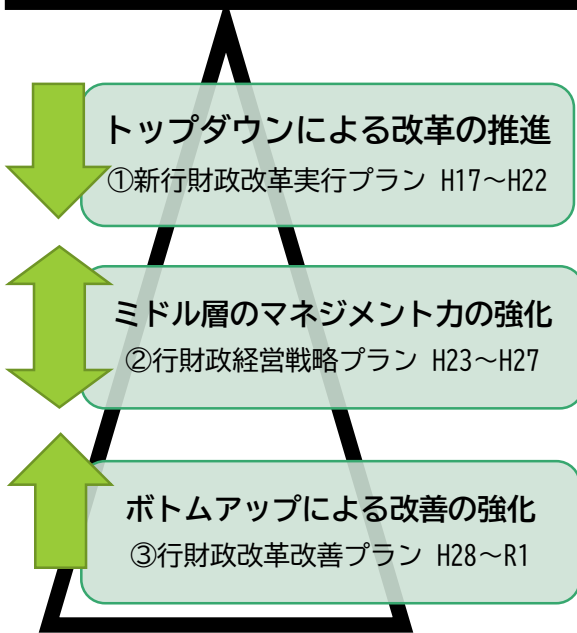


流山市経営改革プラン 概要

これまでの行財政改革プランとその成果



人口増加

- ・150,910人(H17.4.1)⇒195,476人(R2.1.1)
- ・人口増加率：千葉県内1位(5年連続)
- ・年少人口増加数(H26-R1):全国1位(特別区除く)

市民満足度の向上

- ・住み心地がよい 67.7%(H17)⇒81.7%(R1)
- ・これからも住みたい 72.4%(H17)⇒82.7%(R1)
- ・行政について信頼している 46.5%(H21)⇒70.1%(R1)

人口1,000人当たりの職員数

- ・7.27人(H17.4.1)⇒5.62人(H31.4.1) ▲1.65人
- ・※類似団体及び千葉県下最少

流山市の経営に関する現状と課題

職員	人口増加に伴う市民ニーズに対応するため、必要に応じた職員の配置を行っている。一方で、将来的な人口減少時代を見据えると、職員の確保が難しくなっていくことが想定されるため、長期的な視点からの職員の確保と体制づくりが必要。
施設	公共施設の多くが昭和45年から昭和55年頃にかけて集中的に整備されており、計画的な施設の長寿命化や大規模改修更新などが必要。また、将来的な人口減少を見据えた機能の集約や時代のニーズに応じた施設の転用、複合化など、資産の有効活用も必要。
財政	予算規模は増加傾向にあるが、財政判断指標は良好であり、財政の健全性が保たれている。今後も人口増加に伴う市税収入の増加が見込める一方で、扶助費などの義務的経費の増加に加え、施設やインフラ等の整備など、大きな支出を伴う事業により、大幅な投資的経費の増加も見込まれる。

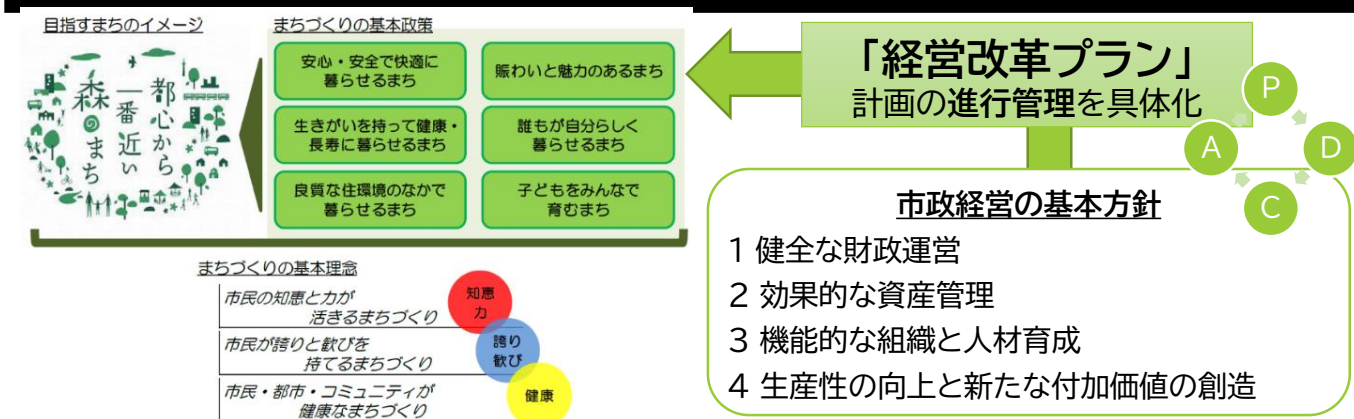
限られた経営資源を効率的・効果的に配分し、施策や事業を展開しているが、今後も人口増加に伴う市民ニーズが増加し、施設の整備が必要になるため、厳しい予算編成状況が続くことが予想される。

適正な職員数を確保しつつ、実施する事業の選択及び投入する経営資源の集中を図り、総合計画を着実に推進する必要がある。

プラン策定の趣旨

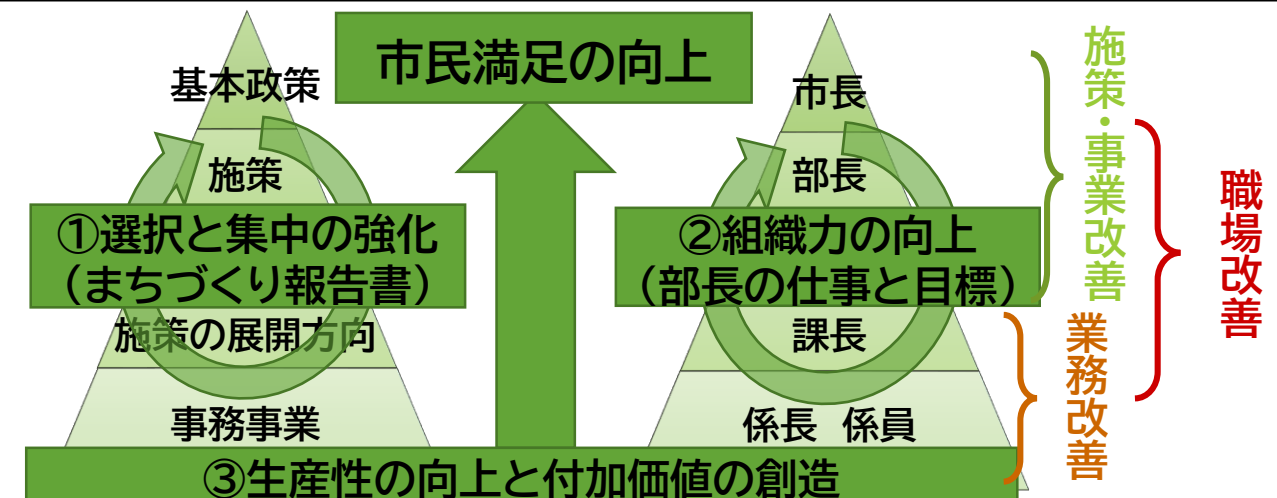
経営資源を有効活用し、総合計画に位置付けられた「施策」及び「事業」を着実に実施し、目指すまちの姿に向かっていくために、新たな総合計画に沿った進行管理の制度・仕組みを具体化した「流山市経営改革プラン」を策定する。

プランの位置づけ(総合計画との関係)



プランの方針と取組み

行政評価制度を見直し、計画の進行管理を行うマネジメントサイクルを強化するため、①選択と集中の強化 ②組織力の向上 ③生産性の向上と付加価値の創造 の3つの方針から、市民満足の向上につなげます。



①選択と集中の強化（施策・事業改善：限られた経営資源を、効果的に配分、活用する）

1. 施策評価と事業評価を一体化し、俯瞰的な視点から施策・事業を評価
2. ロジックモデルの導入により、施策に対する事業の貢献度合いを「見える化」
3. 施策ごとに部局横断評価に行い、市民もわかりやすい「まちづくり報告書」として公開

②組織力の向上（職場改善：組織マネジメントによって、職員個々の総和以上の力を発揮）

1. ビジョン（部の目指す姿、組織運営方針）を明確にし、メンバーが共通の目的を認識
2. ミッション（課の使命、目標）を定め、メンバーが事業を推進
3. ビジョン、ミッションに沿って係単位で改善に取り組むことで、チームワーク向上

③生産性の向上と付加価値の創造（業務改善による効率化と行政サービスの付加価値の創造）

- 職員は職員でなければできない業務に特化し、行政サービスの付加価値の創造を図る
1. 職員の「気づき」・「行動」・「共有」を生み出すためのサイクルの強化（改善ツールの活用）
 2. A I 及びロボティクスの導入による業務効率化